



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

●がんばる子

●やさしい子

●学びつづける子



言葉に心を

平成30年12月3日

校長 小林 達哉

12月に入り、一段と気温が下がり、朝晩はずいぶん寒くなってまいりました。しかし、子どもは風の子。休み時間を待ちかねたように校庭に飛び出し、元気よく走り回っています。老体からすると、うらやましい限りです。

保護者の皆様には、11月の「学校公開日・校内音楽会・校内美術展」「持久走大会」にご来校いただいたり、お手伝いいただいたりして大変お世話になりました。お陰様で、2学期の大きな行事を無事に終えることができました。ありがとうございました。

これらの行事等があるたびに、私たち教職員は、子どもたちに「お世話になった方に感謝しましょう。」と話しています。12月のまとめの時期は、その絶好の機会といえます。

日本語というのは、ほかの国の言葉と違って、感謝や尊敬の気持ちを、上手に相手に伝えることができるとても優れた言語だと思います。

朝、校門に立っていると、元気よく挨拶をしてくれる子とそうでない子に分かれます。口は動いているけれどこちらに声が届かない子、ポケットに手を入れたまま挨拶する子、視線を合わせずに挨拶する子などです。挨拶やお礼は、自分の気持ちを十分に相手に伝えることがとても大切です。その時に前述のような挨拶では、決して気持ちを通じ合わせることはできないでしょう。

本当にうれしい、本当によかった、そして本当に感謝しているという気持ちを相手に伝えるためには、「言葉に心を乗せる」ことが大切だと思います。映画やドラマに出てくる俳優やアニメの声優は、言葉に心を乗せるプロです。日々、言葉に心を乗せる訓練を積んできたからこそ、観衆や視聴者に心が響いてくるのだと思います。

心を言葉に乗せるためのコツを明日のお話朝会で子どもたちに話をする予定です。それは、相手の目を見て「心が伝われ」と願いながら声をはっきり出すことです。そのことによって、相手の表情が笑顔に変わったら、心だけでなく、素敵な幸せも相手に伝えたことになるのではないのでしょうか。